

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく

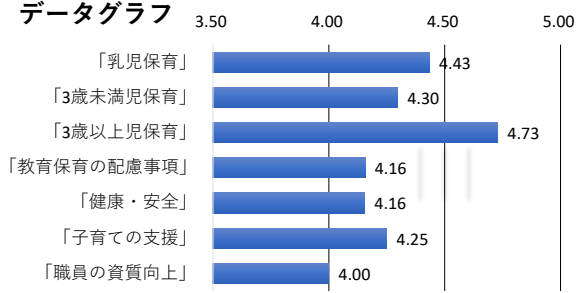
保育者支援のための

自己評価ワークシート

ver. 1.1 (2021/01/08)

全国認定こども園研修研究機構

作成日	令和8年5月1日
法人・団体名	社会福祉法人社会福祉法人 みっくす社会福祉会
園 名	みつばこども園
園長名	神尾 由美

令和7 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価																		
作成日		令和8年5月1日																
法人名		園 名																
社会福祉法人 みっくす社会福祉会		みつばこども園																
まとめ		全体平均 4.38																
第2章第2節 乳児期の園児の保育	前回(4.1)より高い平均となった。本年度は子どもの発達段階に応じた環境づくりを意識し、日々の保育の中で「自ら動き、感じ、考える」体験を大切にしてきた。職員の温かな関わりと工夫により、子どもたちは安心感の中で心身ともに健やかに成長した。センサーマットやセンサーバッグなど保育者による手作り玩具が年々充実してきている。リズムあそび、絵本などを通して感性や探究心が育まれ、こどもたちは「受け入れられている」という実感を得ている。今後も発達や体調に応じた柔軟な環境づくりを継続し「生きる力の基礎」を育む保育を深めていきたい。																	
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	本項目も前回(3.78)を大きく上回る高い評価となっている。開園当初から行っている沐浴を今年度も継続して行っている。生活や遊びの中で一人ひとりの発達を丁寧に見守り、安心できる関係の中で自らの力を発揮できるよう、5領域の育ちを意識した保育を行った。子どもたちは友だちや自然、言葉や音との関わりを楽しみながら心身ともに成長し、「できた!」「やってみたい!」という主体的な姿が多く見られた。保育者の得意を活かす保育を行っており、今後も日々の小さな気づきや成長を職員間で共有し、保育の質を高めていきたい。																	
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	前回(3.83)より高い平均となっている。子どもたちが安心して園生活を送り、友だちや保育者、自然や社会との関わりを通して主体的に考え、表現し、学び合う姿を大切にしてきた。子どもたちが家庭などで経験してきたことを季節ごとの空間作りへと繋げ、友達や保育者と過ごす喜びを味わった。地域の人の協力もあり、子どもたちはコンパインに乗って稲刈りを行い、そこで収穫した稲を精米するということを期待を持って行えた。「自分で考え、試し、表現する」経験を重ね、達成感や感動を学びの力へとつなげた。今後も一人ひとりが安心して思いを表現できる環境を整え、仲間と共に育ち合う教育・保育を継続していく。																	
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	前回(3.91)から高い平均となっている。子ども一人ひとりの健康と安全を最優先に、発達段階に応じたきめ細かな配慮を行った。登園時と午睡前の検温や視診を通して体調変化を把握し、発熱や咳、下痢などの初期症状を見逃さないよう、機嫌や食欲、睡眠の様子を丁寧に観察した。保育室では除菌や消毒を徹底し、清潔で安心できる環境を維持した。保護者と連携しながら生活リズムやトイレトレーニングを支援し、サーキット遊びなどで体を動かす楽しさを感じられることを大切に。取り組みはノンコンタクトタイムで共有し、安心できる保育体制を継続している。																	
第3章 健康及び安全	前回（4.44）平均からは下回る結果となったが、評価者の傾向がやや厳しくなった影響もあると考えられる。園としては例年より内容が充実しており、園児の健康と安全を守ることを目的に、栄養・衛生・安全の面から計画的に取り組んだ。感染症対策や衛生管理を徹底し、園内での感染症蔓延を防げた成果も見られた。管理栄養士が発育状態を確認し、食育活動や地域交流を通して食への関心と感謝の心を育んだ。アレルギーや離乳食は保護者と連携して個別に対応し、除去食の確認も徹底した。安全管理ではヒヤリハットの共有や点検体制を強化し、職員間の情報共有を促進するなど園全体で健康と安全を守る意識を高めている。																	
第4章 子育ての支援	本項目は前回（3.72）を下回ったが、交流ルームの開放やイベントの拡充など、子育て支援の取り組み自体は年々充実してきている。園としては、保護者や地域の子育て家庭を支える拠点としての役割を意識し、多様な活動を継続してきた。一方で、取り組みの魅力や内容が十分に伝わらず、参加者が限定的になる場面も見られたことから、広報や周知方法の工夫が今後の課題である。今後は、保護者や地域とのつながりをさらに深め、より多くの家庭に届く子育て支援を目指していきたい。																	
第5章 職員の資質向上	前回の平均(3.66)からは大きく変わらない評価となっている。職員が主体的に学び合い、園全体として専門性を高めることを目指して取り組んできた。「振り返り→目標設定→行動計画→チーム共有」の流れが定着し、自ら課題を見出して行動する姿が見られた。園長としてはビジョンを明確に示し、保育の方向性や価値観を言語化して共有し、子どもの育ちや環境づくりをテーマに学び合いを深めた。今後は初任者研修も含めたバランスの取れた育成体制を整え、継続的な資質向上を図っていく。																	
総合	本年度は、ほとんどの項目で前回より平均点が向上し、園全体として確かな成長が見られた。特に全体平均が前回の3.94から4.28へと上がったことは、日々の保育実践の積み重ねや職員一人ひとりの意識の高まり、そして保護者・地域との連携が着実に実を結んだ結果であると感じている。子どもたちは、安心できる関係や環境の中で、自ら考え、表現し、友だちと協力して挑戦する姿が多く見られるようになった。職員は振り返りと共有を重ねながら、保育の質を高める努力を継続しており、園全体に学び合う風土が根づいてきている。今後も一人ひとりの成長を丁寧に支えながら、地域と共に歩む園として、より高い専門性と一体感をもって教育・保育の充実を図っていく。																	
データ表																		
内容	項目数	平均																
「乳児保育」	15	4.43																
「3歳未満児保育」	32	4.30																
「3歳以上児保育」	53	4.73																
「教育保育の配慮事項」	16	4.16																
「健康・安全」	29	4.16																
「子育ての支援」	18	4.25																
「職員の資質向上」	9	4.00																
計	172	4.38																
データグラフ																		
 <table><tr><th>項目</th><th>平均</th></tr><tr><td>「乳児保育」</td><td>4.43</td></tr><tr><td>「3歳未満児保育」</td><td>4.30</td></tr><tr><td>「3歳以上児保育」</td><td>4.73</td></tr><tr><td>「教育保育の配慮事項」</td><td>4.16</td></tr><tr><td>「健康・安全」</td><td>4.16</td></tr><tr><td>「子育ての支援」</td><td>4.25</td></tr><tr><td>「職員の資質向上」</td><td>4.00</td></tr></table>			項目	平均	「乳児保育」	4.43	「3歳未満児保育」	4.30	「3歳以上児保育」	4.73	「教育保育の配慮事項」	4.16	「健康・安全」	4.16	「子育ての支援」	4.25	「職員の資質向上」	4.00
項目	平均																	
「乳児保育」	4.43																	
「3歳未満児保育」	4.30																	
「3歳以上児保育」	4.73																	
「教育保育の配慮事項」	4.16																	
「健康・安全」	4.16																	
「子育ての支援」	4.25																	
「職員の資質向上」	4.00																	